令和６年豊能町議会 第７回
スマートシティ特別委員会

会　議　録

令和６年３月13日（水）

豊　能　町　議　会

令和６年豊能町議会 第７回
スマートシティ特別委員会

年　月　日　　令和６年３月13日（水）

場　　所　　豊能町役場　大会議室

出 席 委 員　　５名

秋元美智子　　吉田　正子　　寺脇　直子

管野英美子　　永谷　幸弘

欠 席 委 員　　１名　川上　　勲

委員外出席　　永並　　啓（議長）　　中川　敦司（副議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町　　長	上浦　　登	副　町　長	高木　　仁
教　育　長	森田雅彦	政　策　監	大西隆樹
総務部長	入江　太志	総務部理事	松本真由美
生活福祉部長	小森　　進	生活福祉部理事	浅海　　毅
都市建設部長	坂田朗夫	都市建設部理事	淨住　　修
こども未来部長	仙波英太朗	総合政策課長	田中　久志

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長　浜本　正義　　書　　記　平田　　旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

１．その他（報告）

午後１時00分　開会

○委員長（秋元美智子君）

皆さんこんにちは。

午前中は交通特別委員、また午後からスマートシティ特別委員会と、お忙しい中、本当にありがとうございます。

先月、２月の８日こちらのほうで、一応議長のほうに申し入れて議長のほうから提言書は出されてるかと思います。そのあとに住民監査請求、その前かな監査請求があって、監査請求した人の説明会というのがありました。

非常にここに来て、行政のほうもどのように対応していくのか、見守りというか、非常にちょっと大変な時期かと思いますけれども、いろんな意味で、議会のほうも、ここにいるメンバーの中で、これまでのいろんな経過も含め、また疑問点も含め、いろんなことをちょっと解明できたと。なかなか難しいことですけどもそういうわけで、いきなり挨拶抜きのような委員会で入らせていただきますけども、よろしくお願いしたいと思います。

ただいまの出席委員は５名であります。

定足数に達しておりますので、第７回のスマートシティ特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして町長のほうから御挨拶をお願いいたします。

上浦町長。

○町長（上浦　登君）

はい。皆さんこんにちは。

お忙しい中御参集いただきまして誠にありがとうございます。

本日はですね、御報告をいろいろとさせていただくということがメインだと思っておりますので、御報告をさせていただきながらですね御意見をですねちょうだいして、また、前に進めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

本日の会議を開きたいと思います。

本日の協議事項と御手元に配付のとおりなんですけれども、見ていただくようにその他のほうで、報告、この報告３件あります。

１点ずつ進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

１番最初に前回、この中でも問題になりました江川氏が役場でふるさと寄附金を申入れたときの同席者と、ふるさと寄附金をこれ予算計上するまでの意思決定の過程についてですね、もう一遍説明していただけたらありがたいです。これちょっとゆっくりというのかな、ゆっくりという感じで、前回早かったもんで、ちょっと私自身も聞き取れないっていうか理解できないとこありましたので、まず最初に同席者いうのはいらっしゃいますか。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

前回、ちょっと簡単に御説明のほうを差し上げて、さらにまた確認を求められておりましたので、その後、また私のほうでいろいろ確認をさせていただきました。

令和４年６月議会において、スマートシティ事業に係る費用を予算として計上させていただきました。その際に、どのような経過で企業版ふるさと寄附等々の財源でそういう事業を行うことになったのかというところの経過でございます。

前にも申し上げましたが、当時は前の塩川町長のほうが、何とかしてこのスマートシティ事業を進めたいという、強い意向を持っておられました。ただ一方で、町の財

政規模に比べると、スマートシティ事業というのは規模が大きいため、事業に取り組むことになったとしても、当初から町の単費はできるだけ使わないということを方針とされていたようでございます。

事業を進めたいという町長の思い意向がある中で、町の予算をできるだけ使わずに事業を進めるにはどうすればよいのかという検討をしていたところ、企業側から寄附の申出があって、それであれば、町の負担がなくても事業を進めることができるのではないかということで、予算として財源を措置して、令和４年の６月議会に補正予算として提案させていただいたということでございます。

江川氏でございますが、令和４年の５月の連休中に、来庁されておられたようでございまして、町の、先ほど私が申し上げたような事情を踏まえまして、それであれば、町の負担なしで事業を進めることができますよということで、寄附金を財源とすることを提案されたようでございます。

その際には、塩川町長は同席はされておられませんでしたので、副町長以下の職員で対応されていたということであったようでございます。

その後、江川氏の提案について町長に報告して、町長の了解を得たうえで、寄附金を財源として事業に取り組むこととなったというような経過であったと思われます。

ただ、その前後で江川氏が町長とどのような話をされていたのか、あるいは来庁するまでに既に江川氏が町長に、今申し上げたようなことを御説明されたうえで、江川氏がお越しになったのかっていうところはちょっとわかりませんけども、令和４年６月に補正予算として措置した経過については、以上のとおりでございます。

よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

まず何か。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

当初は協議会から寄附をいただくということになってたと思うんですが、いつＯＺ１からということになったんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

こちらとしては当初からＯＺ１から寄附をもらうということで話を進めていたようでございます。

○委員長（秋元美智子君）

最初に説明いただいたときに、寄附の話があったときに、下にぶら下がっている各企業、皆さんが出し合って、寄附かなと思って確認して私が確認したとき、１社だけだと。あの時は確かにそのようにおっしゃってました。

その１社がＯＺ１だったってことなんですけども、今のお話聞いて、結局、ＯＺ１のほうは寄附の申入れをしたときには、塩川町長いらっしゃらない。だけども、塩川町長も十分そのことを前提にしたうえで、ふるさと寄附金を財源として予算組みをすると、そういうときはもう当然責任ありますよね。これは。そこのところ、塩川町長が特定財源が何だかわからないで入ってったってことはありませんわね。ある特定財源だから、はい、お願いします。

高木町長。

○副町長（高木　仁君）

一般的に今でもそうなんですが、補正予算を上程するときには、当然議案として上げますのでそこは町長最終判断いただいて、上げるということでございます。

財源についてもこういう財源で充ててこの事業を進めますよということは、その際

説明をされておったというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

最初に説明されたように、金額大きいので、町の単費は使わない方針ってのは塩川町長の方針ですよねこれ。それとも町全体がこういう考えだったんですか。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

おそらく町全体でそういう考えのもと、この事業に取り組むということだったと思います。

○委員長（秋元美智子君）

ほか皆さん何かございますか、質問。

いいですか。

次の報告事項に移りますが、よろしいでしょうか。

（委員了承）

○委員長（秋元美智子君）

２点目です。

ハニタスが多走行の車になった経緯なんですが、14万キロかな15万キロかな。

何もね14万キロじゃなくても探せばもっとね、走行距離の少ない車もあったと思うんですけども、このあたりの経緯というのは、どのように確認されてるのかの御報告をお願いいたします。

田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

よろしくお願いします。

車両につきましてはこれまでも御説明をさせていただいているとおりなんですけども、その調達の経緯というところで、もともとその４台を調達するに当たりまして、新車での購入を考えておったというところなんですけども、これまでも御説明させていただいておりますとおりなかなかコロナ禍というところもございまして、新車の納車がですね、間に合わないというような状況の中で中古のほうで対応するということになった経過でございます。

調達先につきましてはトヨタモビリティ新大阪という会社がございまして、そちらから調達をしておるんですけども、そこにつきましては、OSPFの会員というところでございまして大阪府のほうの紹介といいますか、大阪府からこういったところがあるよというところでも御紹介もいただきまして、調整に入ったというところでございます。

その中で２月からの実証運行に間に合う、間に合う形で車両を、リースアップという車両ですけども、その車両を調達したというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

新車も中古車もトヨタモビリティ新大阪さんから購入したもんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

両方ともトヨタモビリティ新大阪でございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

実証実験なのに、最初なんかイベントをされましたよね。私議長として挨拶させていただいたんですけれど、口述書をちょっと書いていただいたんですね。

そこには阪急バスさんとか、京都タクシーさんとかのお礼を言うつもりやったんですけど、なぜかトヨタモビリティさんがずっと来賓でいてはるっていうことで。

そんなに大切な方だったんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

トヨタモビリティ新大阪につきましては協賛企業ということで、入っていただいておりましたので、２月の出発式のときにも来ていただいてですね、一緒に出発式のほうを行ったというようなところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

ちょっと飛躍しますけれどそういう義理もあって、とよのんよりも大きな広告をバスにつけてあったんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。こちらの会社につきましては大阪スマートシティパートナーズフォーラムに加入されているということで、大阪府との取組ということもございましたので、御来賓としてお越しいただいていたということでございます。

で、広告の大きさっていうのは、それほど大事だったのかということで、お話しさせていただきますと、大阪スマートシティパートナーズフォーラムの会員さんということで、スマシ部の職員さんとも御一緒になってやってきたというところで、広報をさせていただいたということです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

全然答えになっていませんけども、人から見たら、車もらったんっていう人もいてます。

スマートシティが私も４回、高尾さんが２回かな、永並さんが１回、チラシを出してますよね、このことがおかしいって。

あそこに大きく掲げてあるっていうことは、車もらったんていう人もいるんですよ。宝くじなんかで車もらっても小っこく書いてあるじゃないですか後ろの後輪のとこに小さく。

そこまでする必要があったんですか。人間関係ができていたっていうか、その辺り教えてください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

特に特別な人間関係があったということはございません。

大阪スマートシティパートナーズフォーラムの会員でいらっしゃって、取組を大阪府のスマートシティ推進部と一緒にやっていたというところで、今回共催いただいたというところで、形として、ああいう広報になったというものです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

何回もすいません。全部で金額聞いたら、1,400万円を800万円にしてくださったんですよね。

一台新車が370万で、中古車が330万、合計したら1,400万を800万円にしてくれはったらそらあええ人かなと思いますけれど。

その辺りは600万円まけていただいたという考えがあるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

要するに広告の大きい背景ですね、なぜああなってるのかというところの説明をいただけたらありがたいなと。

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

前回のときに私1,400万、それは一応市場の価格を参考に申し上げますと、それぐらいになるだろうということで御説明をさせていただいたものでございます。なので、実際に1,400万だったかと言われますと、そこについては内訳については不明だったというところでございます。

で、広告の大きさにつきましては、広告の大きさにつきましてはですね、そういう、例えば値引きがあったからあの大きさになったとかっていうような認識ではございませんでして、協賛をいただいてる企業さんの企業さんということで、交通事業者のほうでそういう、何ですかね、シールのほうも貼っていただいたというようなところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

管野委員。

○委員（管野英美子君）

中古車というのはたまたま私が、あそこで町長になんで京タクの車に塗るのっていう、私があの発言なかったらずーっと私たちはそのステップが出ない理由をわからなかったはずですよ。

どの時点で議会にうそついたろかみたいなことになってたんですか。

○委員長（秋元美智子君）

うそとは言わないけどね、説明は非常に不足してる、そこのところをきちっと説明していただけたらっていうかそこをお願いしたいです。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

すいません。この件に関しては非常にこちらが誠実さに欠ける対応というところがございましたので、そこは反省すべきであったというふうに思っております。

そのうえでどういう経過というところ、いつ頃わかってたのかということでございますが、この国庫補助事業が終わりまして、実績報告をさせていただきました。そのときには、おそらくわかってなかったと思います。

ステップが付く付かないというところで、多分、こちらのほうが、そういうことは

（発言する者あり）

すいません。失礼いたしました。

運行する前にわかってたようでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

だからそういう指示があって、隠蔽したのか。だってそれまでずっと新車４台です、だったんですよ。

注意しないといけないのは、行政って中古買わないですよね。基本的には。中古でもしかしたら、ねえ、今田中さんおっしゃられたように、中古車相場では300万とかもしれないけど、14万キロも走ってたらいろんなところが経年劣化して交換部品もあるからというところで、いくらかかっていくかもわからない。

だから、基本的に行政が買うのって、新車ばかりですよね。中古で買うときはあえて、電気自動車もそうですけど予算委員会で、こういう場合だから中古車を買ってみますっていうようなわざわざ説明するぐらいの話ですよ。それをわかってるのは実証実験前にわかったにもかかわらず、報告もしなかった。それで、いや僕は騙されたのかなと思ってますよトヨタに。

だって、トヨタは得しましたやん。４台新車を出さなくてよくなったんですよ。２台中古車で行けるんですよ。15万キロ走った車に。それはハイエースって結構海外にもあれいくから、それは走るっちゅうたら走りますよ。そういう問題じゃないでしょ

う。

世間一般で言う15万キロ走った中古車、15万キロ走ったらいろんなところが交換したりいろんなところで費用がかかる。それがわかったのになぜ報告しなかったのかを聞いてる。

どういう指示があったのか。本当に深刻な問題なんで、そこはどういう指示で報告されなかったんですか。

何か話してるでしょう、塩川さんと。

そこを確認したいんです。

○委員長（秋元美智子君）

いかがです。

田中課長か松本理事か。

はい、暫時休憩いたします。

（午後１時18分　休憩）

（午後１時20分　再開）

○委員長（秋元美智子君）

はい、再開いたします。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

松本です。お待たせいたしました。

塩川町長から何か指示があったとか、そういうことは全くございません。

中古車でないと、社会実験の予定どおり進められないというふうに、それが一番課題の中でありましたので、阪急バスのほうが、では中古車でということで私たちは中古車でということで、報告を受けたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、吉田委員。

○委員（吉田正子君）

今本当に大変なことを聞いてるんです。

なぜかと言ったら、もうこれで行政の何かされるときに、信用できなくなってしまう、その状態です。

ですから、答えるほうも丁寧に答えていただかないと、これから議員は、一々一々聞かないといけません。前も申し上げたように、今回社会実験でも私ら議員じゃないんです。住民さん乗せるんです。そういうことを考えて、丁寧に、中古車だったら中古車だったということを説明していただかないといけないと思います。

どうしてそこで、まだ、何か意思統合できてないような、すぐ答えができないようになってるのか、私は不思議に思います。

もうはっきりとわかってたら、そんな話し合わなくても、この言葉を考えてちゃんと、この際本当に誠実に真剣に、これからの豊能町、議員と行政の関係にも影響を及ぼすことなので、真剣に答えてください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、当事者の塩川町長がいらっしゃらないから。

永並議長。

○議長（永並　啓君）

今の答弁の中で、報告を受けただけ、もう決められたのは阪急バスで決められて、こっちは中古車了解するしない、全くなかったってこと。

最初新車４台で行くのに、そこで何ももう、それは困りますともなく報告を受けて、じゃあそれでっていう感じなんですか。

主体の事業って言いましたよね。そんなんいいんですか、そんだけ豊能町損することですよ。それでも阪急バスが決めたことで、それを、間に合わないんで中古でいきますわ。そうですかで終わったんですか。

そのやりとりでどうやりとりしたんですか。そこを教えてください。

○委員長（秋元美智子君）

まず予算800万でしたねこれね。800万で新車４台なのか、じゃなくて中古になったから800万に下がったのかもちょっとよくわからないので、ちょっと順を追って説明していただけたらありがたいんですけど。

いつその中古、向こうからちょうど何か説明があって中古ってわかったんだろうし。

この中古の２台分がタダだっていうならいいですよ。

はいどうぞ、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

報告というところがちょっといけなかったのかもわかんないですけれども、３者協議会っていうのを何度もお話ししてます。３者協議会の中で京都タクシーと阪急バスと打合せをしながら進めていっていた。

動かす車の購入については、阪急バスさんサイドでどのようなものでというそのステップの話がいろいろございましたので、お願いをしていた。その中で800万の中で、進めていくということだったんですけども間に合わせるために、新車を４台確保することが難しいというのが３者協議会の中で話がありまして、どうしようという話になってたところで中古車が見つかったので、こういう方向でということを阪急バスさんのほうからお伺いして、ではそれでということでそういう報告を受けたという意味でございます。

スタートする日が決まっておりましたので、どうしても車を調達するっていうところでは、緑ナンバーをつけるとかいろいろなスケジュール感のところの調整っていうのは阪急バスのほうにしていただいておりましたので、こちらも新車でということは意思決定の中でもお伝えもしてたし、新車でスタートするものだと思っておりましたが、スケジュール感のことですとか物が見つからないこと、営業車の手続をしなければいけないこと、このようなことから中古車を使わなければいけなくなったということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

確認しますけど800万円で新車４台ですね。

最初から、ですね。

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

そうなると、本当にトヨタですよ。トヨタが新車２台間に合わない。そんときの生産体制とかいろいろもっと調べていくことが出てきますよ。

そんときの中古車市場とか、本当に15万キロの２台しかなかったのか、見たらいっぱい出てますからね。

そりゃそうでしょ、ハイエースのいくら数が少ないグランドワゴンなんかかもしれないけど、それで天下のトヨタが大阪府も絡んでる事業の中で、新車４台を用意できない。何かしっくりこないですよね。

何か阪急バスとトヨタの中でいやもうちょっとまけておきましょうなんかあったと思われても不思議じゃないですよね。

当初の約束を、新車４台はちょっともったいないわみたいな、推測されてしまいますよ。

やっぱりそこはしっかりと、町の事業っていうんであれば、これだけスマートシティ実験日が決まってもこんだけぼろぼろになってるんですよ。本当に。そこの部分は何が重要かっていうところで、やっぱり議会というものをもうちょっと大切にしてもらいたい。

管野議員が言われてたステッカーの話ですけど、なぜかというと、議会で何回も言ってますよね、とよのん貼ってくれとせめて。どうしてトヨタ新大阪なんか、そういううさんくさいトヨタの会社はあんだけでかく貼ったっていうのは誰が決めたんですか。あんな窓のああいうところに目立つところに。宝くじのってちっちゃく貼ってますよね。Ｆ１の車なんてこんだけで何億とか、あそこの１等地の場所にあんだけ貼るっていうことを、どこが誰に忖度して決

めたんですか。どういう過程で。

それで議会からとよのん貼ってくれっていうのは、なぜあんなに決まらないんですか。すぐに決まらなかったですよね。ステッカー貼るだけなのに。

何でそこまで弱い立場で事業をされてきたのかがわからない。もし今聞いてる中で答えれるものがあったら答えてください。

○委員長（秋元美智子君）

どうですか。

ステッカーのことはね何度もこの場で言ってますし、お二人も伝えてると答弁いただいてますので、うん。

どういう、この構造的にちょっともう一つよくわからなくて。豊能町のニーズに合わせていくのが筋だと思うんですね。

そこはどうなってんのかなと。

ですから、ステッカーのことから先に。

はい、お願いします。

はい。松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

あのような状態でステッカーが貼ってくるというのはもう阪急バスサイドのほうで、車両のほうをお願いしますという部分がありましたので、こちらとして、この部分をこうしてほしいというのが車ができあがるまでに言ったということはしておりません。

そこはもう少し積極的に伝えていけばよかったと今反省しております。

とよのんのステッカーが後から貼られたわけなんですけれども、それについては阪急バスとずっとやりとりをしてまして、貼る場所がないということで、ずっと貼る場所がないということで、何度かやりとりをさせていただいた中でですね、こちらから貼るものをつくってですね、あの場所に貼っていただきたいという申出を具体的にしたところ、最終的には後ろのところに貼ってっていただいた。

それまでの間のやりとりで少し時間を要してしまったということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

これは阪急バスが主体的に動いてるのかな。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

もともとですね、この車を購入するのに大阪スマートシティパートナーズフォーラムというところの中の会員であるそちらの企業が来たというところもありまして、購入に際しても、やりとりをするその場所にですね大阪府のスマートシティ戦略推進部の職員の方もいらっしゃいましたので、経営については少し確認させていただく時間をいただけたらと思います。

確認をさせていただきたいと思いますし、あの場所に貼ったっていう経緯については、阪急バスと大阪スマシ部の中でも何かがあったのかもわからない、そこについては全くわからないので、確認をするお時間をちょうだいできればと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

あのね、ハニタスでかいですよね、阪急バスがやるからトヨタ、次にでかいんです。

それで、一番お金払ってるのは豊能町ですよ。住民を使ってるんですよ。

住民を使って実験をできる、一番貢献してるのどこですか。トヨタですか、阪急バスですか。豊能町ですよ。

言うたらとよのん号ありますよね。あれをベースにしてくれてもいいですよ。あれをベースにしてその上にハニタス貼るぐらいの感覚ですよ。

だから、なぜ車をそういうふうに、自分とこのステッカーを貼る、あんだけ貼ってくるのに、豊能町さん宣伝しなくていいん

ですかあってもしかるべきなんです。

阪急バスは自分とこ宣伝したいからハニタスあんだけ書きますよね。何で次にトヨタのあそこにあんだけ配慮する。

そこは本当経緯を含めて、どういうやりとりがあったのか、しっかり確認してください。本当に来年度やるっていう話です。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと主体的にどっか動いたのかもう一つわからない。

確認したいけど、800万円新車４台ですよね。今も説明、800万円で新車４台を買う予定だったと。だけど中に中古が入っていたと。

今これ、年間ずっと使ってるわけじゃないから、リース的なもんだったのかな、期間的な買い方なのか。そんなことないわね、ないですね、今所有物になってんのは阪急でしたっけ、阪急の持ち物ですよね。豊能町800万円出して、阪急ですよね。間違いないですよね。

これ、主体的にどこがねあのバスのデザイン的なものを何か考えてやってるのか。もう一遍ちょっと確認してください。

そしてもちろん、とよのんを大きく出すようにしないとやっぱり住民のほうにも伝わらないし、ここにいるみんなも納得できないので、もうちょっと調べてください。

今の件でほかに。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

管野議員の関連なりますけど、当初はハニタス４台で新車で800万円ということで聞いておりまして、それから中古車２台が含んでたと。

そのまま800万円ずっといってるんですけど、普通だったら下がりますよね。新車が４台で800万でしたから中古車になれば当然下がるんですけど、それについては、どういうふうなお考えになるんでしょうか。

この点についてお伺いします。

○委員長（秋元美智子君）

1,400万が800万になったかとそういうことじゃなくて、最初から800万で新車だとおっしゃっていたから、逆にそこに中古が入れば800万からもっと安くなってもよかろうかという質問です。

このあたりなんかどういうふうな話になってました。

はい、田中総合政策課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

あの800万円で４台、新車４台、それが２台は新車２台が中古ということで値段的に下がるのではないかというところなんですけども、そこにつきましてちょっと内訳のほうは把握しておりませんで申し訳ありません。わからないんですけど、ただ、一般的な市場価格を見ますと、800万円より高いといいますか、800万を超えるような車両なのかなとは思っております。

○委員長（秋元美智子君）

どうぞはい。

永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

何回も言いますけど、新車で４台で800万、それが中古車２台を含んで当然下がるんですけど、そのまま800万円で行ったという妥当だという認識でそのままいったということに僕ら感じちゃうんですけどね。

実際のところ中古入ってますんで、当然新車より安いのは当然わかってますんで、この辺が結局は協議会の間での話なのか、トヨタモビリティ、協議会ってますけど、そことの話の中で800万で支払いを終わったという認識しか持ってないんですけどね。

それが、私は中古入ってるんで、そのままの話で、新車４台で800万が中古二つ入っ

たら減るのが当たり前なんですけど、この800万で済んだのかなという疑問があります。

その点についてちょっとまだ詳しい答弁返ってきませんので、ちょっと、取りあえず返ってこないので置いときます。

○委員長（秋元美智子君）

というよりも、この車の契約書とかそういうのはないんですか。口約束では800万で、中古になっても800万で、それなりの契約書があると思うんだけどそれはいかがです。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

今回の契約はCSPFCとやらしていただいておりまして、トヨタモビリティっていうのはその先の業者でございます。で、この委員会でも、毎度毎度いろいろ見積り出えへんのかとか、意見いただいてまして我々もそれはCSPFCといろいろ話をしてるんですが、なかなかこちらのほうに出てこない。

今の段階ではこれ以上ちょっと求めるのが難しいという状況でございます。

○委員長（秋元美智子君）

それはないと思うけど。本当に。

これ全部業務委託したわけでしょ。

丸投げってことかな。

あとは向こうの指揮次第、やりたい放題。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

今、また委員会で御意見いただいておりますので、再度こちらのほうで調整をいたします。

その結果についてまた御報告させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

先ほどから社会実験に間に合わない間に合わないって言ってますけど、これ業務委託で任したわけですよ。間に合わなかったらそこの責任問題ですよね。何のための業務委託ですか。そしたら、こっちが強気になれるはずですよ。

だって、何の業務委託で丸投げしたんでしょ。この日から実験始めますよって。そしたら向こうはそれをちゃんと守らないといけないですよね。そのときから始められるように、最初の示した条件のように。

ですから、何もこっち側が、その日が決まってるからって妥協妥協ってする必要ないんですよ。

いやちゃんと守ってくださいよと、契約に則って、この日に社会実験を始めようとしてたんですから最初の契約どおり新車４台で何としても用意してくださいって強く言えば、トヨタだったらやってくれたん違うかなと思うんですよ。

何度聞いても、トヨタが２台間に合わないというのが引っかかってしょうがないんですよ。何かそこに、いやもう４台は出したくないと。何かそれにしか聞こえないの。うん。

それもスポンサーとしてこういう事業を大阪府も府挙げてやってるような事業の中で、天下のトヨタが４台用意できない２台しかないから２台中古でっていう。僕がそっち側やったら、本当にしたいんやったら、４台無理やったけどちょっと本当に事情で無理やったけど２台は新古車持ってきましたが普通ですよ。絶対あるから。いろんなところに転がってるから。それがなぜか15万キロなんてもういいようにカモられたにしか見えへんのですよ。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

先ほどの副町長の答弁だったら、私たち何で実証実験するんですか。今回も、予算

入ってますけどね。

こんないい加減な協議会と、何でこのまま続けてやらなあかんのですか。そこはどこへ言いに行ったらいいんですか、大阪府ですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

この間いろいろ委員会で委員の皆さんから厳しい御意見いただいてます。

大阪府とも、この件、こういう話になってて今こういう状態に豊能町置かれてますということは、大阪府、国のほうにも伝えております。

我々も、こういった御意見いただきながら、ＫＰＩというところがございますので、これは何度も何度も申し上げておりますけども、２年間やっていかなあかんというところがございますので、そこのところ御理解いただきながら、八つのうちの三つでございますけども三つの事業について、これは住民サービスの向上につながるものであろうと、いうところで御理解いただきながら、令和５年度はやらせていただきました。

で、CSPFCがどんな企業でちょっと皆さんの意見を総合すると、ちょっとうさんくさいんちゃうかというところだと思います。

そこんところは、大分うさんくさいという御意見もございますけども、そういった中でもですねちょっと我々といたしましては、いろいろ御疑念がお有り、我々もちょっとそこを十分説明できない部分も、間にCSPFCが入っておりますもんで、直接トヨタモビリティのほうにもこれから確認もできるのかなと思いますけども、ちょっとそこんところはワンクッション入る関係でどうしてもちょっと満足にいかない、いただけないお答えになっている部分も多いかと思います。

ただ、我々といたしましては令和６年度の予算で、取りあえず三つの事業についての必要な費用経費ということで上げさせていただいております。昨日、予算委員会のほうでは否決されておりますけども、引き続き我々としては、この三つの事業については何とか進めさせていただきたいというお願いをこの場でもさせていただきたいと思いますし、引き続き、何らかの対応でKPIというところだけは、何とかやっていきたいなという思いはございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

町の立場もわかりますけれど、私たちこのCSPFCさん、逃げてるっていう形、逃げてる人たちに対して、何で私たちがKPI、やらなあかんのですか。

だから、逃げられてるからできませんって、もう今そんな答弁されてたら、ここを抜いとこかなとかって思いますよ。

ちょっと、ちゃんと対応していただきたい。今は誰がやってはるんですか江川さんか真子さん。

誰とも会ってないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

CSPFCの代表、江川さんです。

事務局長が真子さん。

○委員長（秋元美智子君）

誰と話したらいいのか、こっちは本当業務委託してますよ全面的に。

○副町長（高木　仁君）

事務局長の真子さんと我々今まで話をしておりますので。

○委員長（秋元美智子君）

しかも、ふるさと寄附金にしても１億何千万払うと言いながら、今だだから、それ

だったらきちっと出していただきたい。違いますか。CSPFCから、次のところどんな契約をしたのか。それ出してしかるべきでしょ。

行政としてはどっかのこの今回に限らず業務委託したときに、そこの会社、次のところとどんな契約してるかってことは求められないんですか、これ。

はい、副町長。

○副町長（高木　仁君）

この間いろいろ、繰り返しになりますけど委員会で御意見いただいて、我々CSPFCと協議してまいりまして、その結果を御報告させていただいております。

また改めてですね、CSPFCに対しましては今日いただいた御意見をもって、また出してほしいということで強く求めていきたいというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

前からずっと言ってるじゃないですか。それでちゃんと返ってこない。

その真子さんと話し合ってるんですか。いつも毎週木曜日あそこから楽しい声が笑い声も聞こえてきましたよ。

そういう会議は今はやっていないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

毎週木曜日してるのは豊能町とだけではなくてですね全体的なCSPFCの会ですので、ほかの自治体ですとか、企業体全部が入った会議が毎週木曜日にあるということでございます。

そのほか豊能町としていろいろ打合せをさせていただきたいというときはこちらから申し入れる、若しくは向こうから申し出て、ZOOMでお話しさせていただく、対面でお話しさせていただくということで、日にちは決まっているものではございません。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

今日で第７回のスマートシティ特別委員会です。過去に第６回、厳しいことをみんな言ってきましたけども、そのことは全部伝わっているんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。お話しする機会ですね打合せの機会がございましたら、この特別委員会のことについては全てお話ししている状態でございます。

○委員長（秋元美智子君）

詳しい中身についてきちっと出していただきたい。

例えば、とよのんのステッカー一つにしても、なぜ前進まないのかが非常に疑問ですよね。

管野委員。

○委員（管野英美子君）

伝えるだけじゃ駄目なんですよ。答えが欲しいんですよ私たちは。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

答えがっていうのはそれぞれそのときにですね、検討してお伝えして返ってくるものを今お伝えしている状態ですけれども、全ての報告というふうに今申し上げましたがこの特別委員会の議事録のほうは事務局長の真子さん全て読んでいらっしゃいますので、その中身についてお話をするという機会もございます。

○委員長（秋元美智子君）

管野委員。

○委員（管野英美子君）

私たちには返ってきてないと思います。

中古車のことにしても、知ったんが11月26日、そのあとのスマートシティ委員会で言ったんで。一旦おきます。

○委員長（秋元美智子君）

もう車の契約書とか、ねえ、向こうの業務委託先が何だっけ、CSPFCが次のところとどんなまた契約したかという、そういった書類は当然、豊能町に出してしかるべきだと思うんですけど、そういうもんじゃないんですか。一般的に。

大変じゃないすか、ここで言ってるお二人が松本理事と田中課長が今度口頭で伝えていくのはね。

きっと向こうこうですよ、耳流れてると思います。

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

今までここでいただいてる御意見いろいろございました。それは何度も申し上げますけれどもCSPFC側には伝えております。

で、CSPFC側も、特別先ほど申し上げましたように特別委員会、我々のこの議事録というのがオープンになってますので、それは御覧なっていらっしゃいます。

我々豊能町と、今CSPFCの関係というのもそこは、御理解いただいてるというか把握はしてらっしゃると思います。

これからCSPFCに対して、見積りが出てこないというところがございますので、そこんところは例えばですね、我々一度その口頭じゃなくて文書でこういうことになってて、こういう状況なのでこういう書類が欲しいということを正式に申し入れるということも検討していきたいと、やっていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

ぜひお願いしたい。今のは。それっていうのはもうここ１、２週間で何かしら対応していただけるのかな。

はい、副町長。

○副町長（高木　仁君）

こちらから照会って言うんですか、見解を求めるような文書は出すのは出せます。ただ、回答期限がすぐに、今日明日ということにはならないと思いますので、ちょっとお時間いただきたいというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

でもやっぱりね、町としても何かしら動いたという形を残していかないと。ですからそういう意味ではよろしくお願いいたします。

今のこの件でもちろんとよのんのね、大きく貼ってちょうだいってのも大事な一つです。前から出てる意見ですのでお願いいたします。

ハニタスの件でほかございますかしら。

いいですか。また新たな疑問が出てきたときにご案内いたします。

３番目にいきます。KPIについてです。

これ予算を認めなかった五つの事業について、国、府は、KPIをとらなくてもいいとか悪いとか、何かしらの進展あったかどうか、その辺りの説明、報告をお願いいたします。

五つありますので順次。

○副町長（高木　仁君）

そしたらですね、五つの事業についてはKPIっていうか予算がつかなかった。

その中で、我々KPIをとるべくどういうふうなことに取り組んできたのかというところをまず御報告、御説明させていただきます。

○委員長（秋元美智子君）

はいどうぞ、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

まず最初にこれまでの大阪府なり国のほうでのやりとりというところなんですけども、国のほうにはですね９月、それから12月、それから１月、２月というところで御相談のほうは差し上げてるようなところでございます。

ただ当然、やらなくていいというような答えはいただいておりませんで、ちょっとやりとりを今、整理最中だというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

今何かしら結果出さなくちゃいけないってこと。

○総合政策課長（田中久志君）

残りの五つのサービスなんですけども、KPIをとれる、今努力をしながらやっているというところでございまして、例えばですけどもデジタル教育に関しましては、総務省のほうの事業を使いまして、Honkiさんという株式会社Honkiというところの企業さんを使ってですね、スマートフォン教室をやったりですとか、あと、例えばその一例として申しましたそういうような形でですね、予算にかからないところでやっていってるところであったりとか、あとは、そうですね、地域経済、ここにつきましては、ちょっとやっぱりこのポイント事業というところになってきますので、ここについてはちょっと今難しいような状況になっております。

あとデジタル行政のほうですね、デジタル行政につきましては、今とよのんコンシェルジュのほうのアプリにつきましては、動いているんですけども、ただデータの更新といいますか、例えばデータダッシュボードということでデータが見れるような状況になってるんすけどデータの更新ができていないとか、そういうな状況になっております。

あとインフラ公園。

○委員長（秋元美智子君）

はい、部長お願いします。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

インフラ公園のほうですけども、実は文科省のほうの進めてます戸知山のほうで進めている実証実験の関連で、別の予算で追加予算で今年度と来年度に補助金が大阪大学さんのほうで取れておりまして、その一環で、公共空間の中の公園ですね、公園の居心地よさの評価に関する研究も、また、自然災害とは別で、取組を開始しておりまして、その一貫でできたら豊能町のKPIを取るための声の、要は満足度とか、利用者の平均利用が今回公園のインフラの目標値になっておるんですが、それを何とか含めてもらえないかいう交渉を11月ぐらいからちょっと話してたんですが、結論でいいますと、ちょっと今年度は難しいということで聞いてます。

ただ来年度につきましては、うまくいけばその二つの項目に関しては、文科省の阪大さんがやっていただくその一環の中で、居心地を公園の居心地を評価するという項目の中で、やっていけるかなということで今期待してるところです。

あとはちょっと今年度どうするかなんですけども、二つありまして、一つはサービスの満足度、こちらについては、実は公園のインフラを整備終わったあとに、令和５年の１月22日にリニューアルオープン、光風台中央公園やってます。その際に、アンケート調査をこちらのほうで実施しておりまして、その中で、満足度、要は整備前と整備後の満足度については、もう町のほう

で、把握してるので、これを使おうということでも思っております。

あと、問題なのは、平均利用者数、月当たりですね。こちらについてはちょっとなかなか難しいので、例えば３月のある時期のやつを人数を12か月に回すとか、ちょっとそういうことで何とかできないかないうことで今考えているところです。

あと実はこの公園を整備した企業さんがＡＩカメラを設置しててまして、その中で企業さん独自で、その時流検知をどうもやっているというのがちょっとわかりましたんで、そのデータを何とか無償でいただけないかないうことを今交渉中でございます。

はい。インフラから以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ありがとうございます。

子育て支援ってのはなかったっけ。ゼロのあれはよろしかった。

はい、じゃあ。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。すいません。

子育てが漏れておりました。就労支援サービスということであったと思うんですけれども、あれについては無償提供ということで引き続き運用をしているという状況でございます。

○委員長（秋元美智子君）

利用者いる。今のところいますか利用者、利用者というのか加盟者、無償でやってるわけでしょ、今。私の耳が間違ってた。

はい。もう一遍説明お願いします。

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

先日CSPFCのほうに確認いたしましたところ、利用者としてはないというような状況でございます。ただアクセス、アクセスに関しては、ちょっとすいません数字のほう今把握はしておらないんですけども、アクセスついては、あるというような状況で聞いております。

○委員長（秋元美智子君）

今の段階で、ほぼほぼKPIが可能というかクリアできそうなのは、デジタル教育ですね。

それと、おっしゃった公園、ちょっと一つ一つ課題はあるにしても、これは進めてるって理解したらいいかしら。はい。

それから、デジタル行政のコンシェルジュのデータ更新はできないとか、このあたりなんか特に地域経済なんか、難しくちょっと、もうちょっと詳しく説明していただけたらありがたいですが、どの辺が大きな問題になって今後どういうふうにしておこうか。

お願いします。田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

デジタル行政のところはですね、実はKPIも幾つかございまして、イベント予約、イベント予約システムの利用件数、申請件数、それからRPAといいまして職員のほうの作業時間。前回はふるさと寄附の関係ではやってたある業務があるんですけども、その分であったりとか、あと、それらの満足度、こういったものがあるんですけども、動いていないというところで、これはちょっと難しいというな状況です。

地域経済のところについては昨年度はとよのんウォレットでポイントをためて使うというようなところがあったんですけども、こちらについてもシステムのほうが今止まっている状況なので、取得が難しいというような状況になっております。

○委員長（秋元美智子君）

子育て支援のこの会計は、このままでいいっていうことかな。KPIするしないもゼロ

だったらしようがないけど。

はい、お願いします。

田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

子育て支援のほうにつきましては、システム自体は無償提供ということで無償ということで、システム自体動いてはおりますので未達ではありますけども、こちらについてはKPIとしてとれるということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

今のことで何か質問ございますでしょうか。

はい。永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

永谷です。

最初のKPIの話で、府、国のほうにお話ししているということで、すごく懸念してるのが、例えば、見守りでしたら250のうち45ぐらい、実際にもう少なくなるんですけど、国は一つでもね、あれば、KPIとってオーケーですよというそういう体制なのか、いやいや、250分の例えば半分以上取りなさいとかそういう決め事があるのか。

すごくそれ心配なんですね私自身も。それで、これ例えば何もできなくて反対に国から補助金返せとかですね、もう一つは、会検が入ってきた場合にね、町全体の問題になってきますのでその点もすごく懸念してるんです。

それも含めてしっかりと府と国のほうにですね相談しながらやっていらっしゃるのかどうか、この点について、全体的な話なりますけど、お願いしたいのと、先ほどいろいろ進んでないというのは要するに、協議会のほうがもうストップしてるという、感じでいいんですかね。

要するにWi－Fiも中央公園止まってるんですか。まだ動いてるんですかね中央公園のWi－Fiは。

要するに止まってるのは協議会の協力というか、もういろいろあって、もうストップしてるというようなことも聞いた覚えがあるんですけど、ちょっとそれについて特に国、府とのね補助金と、それと会検が入ってきたときに大変なことになるので、それでそのところ私自身は懸念してます。

その辺ちょっとお話を伺いたいなと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

KPIの件ですけども、国、府とのやりとりというのは先ほど田中のほうが御説明したとおりでございまして、我々、府にもKPI取れてませんという、予算がないのでっていうところで御説明してますし、国のほうにも、何回もこれ確認を求めてます。

ただ国のほうから明確な答えが返ってきてないというところは先ほども御説明したとおりでございまして、我々もちょっとこれは不安に思ってるところございます。

KPI全部で八つのメニューがございます。その中にいろんなKPIがぶら下がってるもんですから、そのうちの幾つとれたら補助金返さんでもええねんとか、そういうもんでもないのかなと思ってまして、取れない部分が出てきたときに、その年そのサービスにどんだけお金かかってその部分返せと言われるのか、全部返せと言われるのかそこんところも全然わかってない状況でございます。

ただ、内閣府のほうと今やりとりしてますけども、内閣府のほうから何も言ってこないので、我々このまま６年度も突入していくことになるんですけども、おっしゃるように会計検査というのはまたこれ全く別

の組織でございますので、そこんところが、何か言うてきたときには、もう事業が終わったあとにそういうことになってくると、これは手後れになるなと思ってまして、そこんところ我々も非常に懸念してます。

さらに内閣府のほうに今も照会かけてるんですけども、これが返ってこないとなると、ちょっとまたいろんな、手立てっていうんですか、ことで何とかその確認を、どういう形で確認とればいいのかってちょっとまだ私の最終これがいいというものはありませんけども、さらにちょっとそこは詰めていかなあかんなというふうに思ってます。

で、見守りの話また後ほど御説明いたしますけども、今KPIについて我々も永谷委員が御心配なさっておられるようなことは我々も懸念しておりまして、これからも引き続き、国、府と協議っていうんですか、こういう状況というのは、当然国のほうは十分把握してるはずなんです。我々文書でそういうことを出しておりますので、それを踏まえた対応というのは、どうあるべきなのかというところは国のほうに確認を求めていきたいというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい。松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

見守りのKPIについてなんですけれども、KPIどれもなんですけれども、KPIっていうのは実証実験をしたその４年度のあと２年間に設定しているものでして、この設定したKPIに向かって進めていかなければいけない。これは絶対進めていかなければいけない。進めていったところ、未達っていうことであれば、それは努力したけれども、個数なりの表現をKPIでしてるところについては、それには満たなかった、けれどもやり続けたっていう結果が残るので、それはそれでいいというふうに聞いています。

昨年内閣府のKPIの途中のヒアリングっていうのが秋にあったんですけれども、その中では、内閣府にない、こちらからメールも送ってはいるんですけれども、そのことに対して何かそこで意見があったということはなかったですけれども、その場でもKPIの達成に向けて努力はし続けてくださいというのが最後の締めの言葉でありました。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

Wi－Fiの件なんですけども、先結論から言いますと、現時点では動いてます。はい。それで、予算は町の予算も全くありませんので、一旦止まっておりました。で、先ほど阪大との交渉の中で、６年度は、この公園の居心地の関係の研究をするということでお話しさせていただいたんですが、その際、要は大阪大学さんのほうも、あるものは使いたいという考えでしたので、豊能町のデジ田でつくったＡＩカメラをせっかくあるんであれば使いたいという話がありましたので、その関係を若干企業さんのほうには振っております。

その関係で、いきなり４月から今年の４月から始めると、データも何もない状況ですと企業さんも困るので、多分独自で11月ぐらいからいろいろＡＩカメラの検証とかWi－Fiとかを一旦自分とこの費用で、どうも上げてるようです。

ですので、一応11月ぐらいからデータはあるようなことで私ども聞いてるんですけど、その交渉を今してるというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、どうぞ。

はい、吉田委員。

○委員（吉田正子君）

デジタル公園のとこはデジタル公園の運営に、平均利用月とか住民満足度、これは書いてありますけども、先ほど、ＡＩのあれ阪大がやってると言うてはるけども、私らは今日聞いたばっかしで、そういうふうな利用をされてるのは聞いてないし、それによって人動その何か情報が何かなったら困るので、なぜ今日これそれを、デジタル公園のことについての、うん。

動いてるっていうこと言いはったんで。

勘違いしてるかもしれませんが。

○委員長（秋元美智子君）

坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

すいません。説明不足で申し訳ありません。もう一度、説明させていただきます。

４月当初はもう全部止まっておりました。

それで、秋口ぐらいから、阪大さんとの交渉の中で、要は公園の居心地っていう評価の研究をですね、大阪大学さんが進めようということで、本町のほうに話がありまして、実証実験の場はどこにしょうかいうことで、デジ田で作りました光風台中中央公園がいいんじゃないかということで私のほうから話をして、そしたらそこでいこかいうことで令和６年度からスタートすると。

その中で、公園の中にせっかくＡＩカメラがあるんであれば、大阪大学さんのほうから、あるもんは使えたらいいです、足りないものは追加でどんどん国から補助金もらえますんで、追加していきますというようなお話がありました。

その話を、実は秋口ぐらいのときに、CSPFCの企業さん、要は光風台中央公園を設置した企業さんにも話を振ってます。

要は、ちょっとしたもしかしたら儲け話があるかもしれないんでいう話を秋口にさしてもらってます。

本町のほうからは、それでずっとこちらには何も聞いてなかったんですけども、企業さんが独自で11月ぐらいからどうもＡＩカメラのもう１回検証なり、Wi－Fiをどうも独自でやってたということを、私は昨日、昨日ちょっと聞いたということで、実際町のほうに何かしらデータもらえてるとか、Wi－Fiが使えてるとかちょっとそういうのではなかったというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

私のほうからちょっと１点。デジタル行政なんですけども、ふるさと寄附のとこで、１、２週間かかったのがすごい早くできるようになって、あれ今も使えるんですよね。

ここのとこさっきなんか使えなくて使えないようなふうにも聞こえたもんですから、使えますよね。

はい、お願いします。

田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

RPAというシステムになるんですけども、こちらについては無償ということで使えるのは使えるんですけども、ちょっとどう言ったらいいですかね、更新といいますか、そういったところがちょっとできていないというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

ということは使えないってこと。使えない。確か高いお金かけて開発したと思ったけど使えない。

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

そうですね、今は使用できていないという状況でございます。

○委員長（秋元美智子君）

それは、KPIの予算とらなかったからです

か、更新料。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

デジタル行政のコンシェルジュなんですけども、ここ見たら買い物とかはリンクされてるから勝手に見てるっていう形なんですか。

例えばコープさんとかオアシスさんとかは、買い物ってクリックして押したら、クリックちゃう押したら出てきます。

それはもうリンクされてるから勝手に見てるということですか。別にここ押さなくても私はアプリ持ってるからなんですけど、これも基本使えないということ。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

とよのんコンシェルジュにつきましてはこちら無償で今運用というか、提供していただいているので、引き続き運用ができているという状況です。なので、リンクは当然中から貼っていってるんですけども、それも見れているのは無償提供していただいてるからというところでございます。ここは予算に関係なくてやっていただいてるところです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

全くこの教育とか子育てとかはただここに書いてあるだけっていうことですね。

リンクされてる部分だけ使える。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。委員おっしゃるとおりでございます。

○委員長（秋元美智子君）

本当にちょっと申し訳ないけど、デジタル行政はイベントの予約システムはできてませんよね。なおかつ、去年つくられたふるさと寄附金のすごい早くできるという、それも今使えない。

ということは全くないと。豊能町に何も残ってないっていうことですか。

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

システムによってはですね、そのシステムの要は利用料といいますか運用していくための維持コストというのがやっぱりかかってまいりますので、そちらのほうがないシステムについては企業さんがもう今は無償でやってくれてる部分もあるシステムありますけども、基本的には利用料というのがかかってくるというものでございますので、予算がない部分については基本的には同じ形でのKPIはとれないということになります。

○委員長（秋元美智子君）

はい、どうぞ。

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

最初の補助金、最初のお金でプログラムをつくった事業はあるんですか。向こうはつくるだけつくって、それで利用は、更新料払わないから使わせないっていう感じなんですか。

どれに関してプログラム、そのソフトの値段も税金でつくったんですか、どれが。いろんなところね無償でもともといろんなソフトがちまたにあふれている中であえて、この豊能町のスマートシティの事業の中で、一からプログラムをつくって、そこに一番お金かかるんですよね。一から作成するところ。それが企業はお金を使ってプログラ

ムは持ってる、ほかにも転用できる土台の部分はできている。でも、継続は、更新料払わないからさせない、こんなこと言ってるんですかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

はい。総合政策課、田中です。

このシステムっていうのは基本的に豊能町にサービスを提供してもらってるんですけどそのシステム自体を納品されてるわけではなくって、企業が持ってるシステムを使ってるっていう形になります。なので、そのシステムを使っていくのは当然運用のコストがかかっていくので、そこについては利用料といいますか、使用料も払うというのはほかの電算とかのシステムもそうなんすけど、そういう形になってます。

ただそのデータとかについては、当然連携していかないといけないのでそこの連携にかかる経費ですとか、それと各サービスごとの連携ですとかそういったものを交付金を使って構築したということになっております。

○委員長（秋元美智子君）

わかりました。

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

一からもともとあったプログラムを豊能町バージョンにちょっと変形させたぐらいなんですね。一からつくったわけではないということでいいですか。そこ大事なとこなんでね。

以前の中で、それで中川副議長なんかが特許、知的財産をとってっていうようなこともおっしゃってましたよね。ということは、権利はここにもちょっと開発に関わってるような感じに聞こえるんです。

今の田中課長の答弁では、もともと、もうソフトはできてましたと。それをいろんなバージョンに極端に言うと、日本語版に変換しました英語版に変換しました豊能町版に変換しましたぐらいに聞こえるんですよね。だから利用料が要ります。

そこら辺ちょっとはっきりしとかないといけないと思いますよ。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

例えば、とよのんウォレットというシステムがありましたと。ウォレット自体はデジタルプラットフォーマーという会社が持ってる、もうシステムでもともとありますよと。それを豊能町の中にサービスとして落としていくときに、豊能町が使えるようにするのにカスタマイズが豊能町用にカスタマイズすることが必要と思うんですけど、そういった費用は交付金で見てます。

あと、それぞれの横のサービスをつないだりとかあとデータ連携基盤につなぐという作業が必要なってきます。こういったものは交付金で見るようなってます。

ただ、それを引き続きずっと利用をしていくと、システムを利用していくとなった場合には当然月々の利用料、そういったものがかかってくるということでございます。

なので、システムの権利自体は、企業のほうにあると。町はそれを使っているというような、そういう認識でございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

そこじゃなくて、開発に当初に豊能町用に開発したものはないんですね。もともと持ってはったんですね。それを豊能町版に全部変えただけですね。

それやったら、知的財産の関係あれへん。もともと向こうが持ってるもんですから全部。いやこれまでの議論の中で、それだったら豊能町も特許料みたいなものが一部は入れるようなっていうのでそれも検討しますみたいな話してみますということをおっしゃってたから、ね。そこら辺との食い違いですよ。

それを求めれるってことは、同じ開発者に、極端にいうと特許の申請書んとこに豊能町が入ってるっていうような状態になるわけですよ。でも今の田中課長の説明だったら、もともとそんなんは向こうが全部持ってるものです。それを、今回のスマートシティ事業で、豊能町版にちょっと改善しただけなんで、そんな権利、はなっから特許料みたいなものはありませんと、印税なんてありませんっていうことですよね。

それやったら最初からそう言うとかないと。ねえ。

○委員長（秋元美智子君）

そこはどうですか。

はい、田中課長。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

私もそういうつもりと言いますか、それちょっと誤解を生むような言い方になってたのでしたらちょっと申し訳なかったと思ってるんですけども、基本的にいわゆるシステムを構築するためにサーバーを全て、豊能町の中で全てそのシステムを動かしてというようなやり方ではないので、あくまでも企業が持っているシステムをデータ連携するなり、そういったところで使っているというところでございますので、権利としては豊能町にはないという認識でございます。

○委員長（秋元美智子君）

例えばデジタル行政にしても、1,000何百万、1,600万かな700万ぐらいかけてやってますわね。ふるさと寄附金のデータ、すごい早くなったって。いやそれはすばらしいなと思ったけど。

それは、1,600万、700万かけても豊能町には何の権利もないと。相手側がもうぱちっとおしまいって言ったらもう今おしまいの状況。何も残ってないってことですか。

はい、お願いします。

○総合政策課長（田中久志君）

総合政策課、田中です。

システムを使うのに利用料、要はコストがかかってきますので、その運用経費がかかるということを申し上げているところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

デジタル行政一つとってなんですけども、豊能町として残ってるプログラムの開発的なことはあるんですかと。

ただそれは、豊能町として財産として持ってるんだけども、相手側の何がしらのところが作動しないとこれは使い物にならないってことをおっしゃったのかな。

それともそうじゃなくて、1,600万、700万そのもの全てが、使えないっておっしゃってんの。どういうことかちょっとわからないんですね。

だってあんなにね、仕事が早くできるようになったって喜んでらしたのに。

はっきりと本当に、どんな業務委託したのか出していただきたい。

はい、永並議長

○議長（永並　啓君）

どんなプログラムでもそれなりの最初に初期投資で買いますよね。パソコンに入れてるプログラムでもね。それで古いバージョンで使っていけるんですよ。新しくはできなくても。だってそれぐらいの金額を払ってるから最初に。

でも今の話だと、最初にプログラムの合わせるのにすごいお金を払ってるのに、いざ更新しなかったら一切使えない。すごい会社ですよ。そういうことでしょ。

そしたらこれから知りたいのはそれぞれのプログラムにどんだけの費用を払ったかっていうところを、これから検証する必要が出てきました。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木　仁君）

申し訳ございません。ちょっとこちらのほうで一旦整理させていただいて、また次回に整理させていただいて、また、お示しさせていただくということで、よろしくお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

少なくともこの一覧出てます、前回経費の。何が残ってね、何が使えない状態になってるのかだけでも教えていただきたい。

ほか皆さん要望ありましたら。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

同じことなんですけれどね、子育てもそうだと思うんですね。

で、幾らかな、1,100万円、1,170万かな。

それも、オンラインの会計ソフトが入ってたら、豊能町にもらえないんですか。そのお試しの２回、６回、その分だけでもね、豊能町にもらえないんですか。同じようなことです。それも調べていただけますか。

もう一つね、このCuelっていう会社なんですけれどね。よろしいですか。続けて。

○委員長（秋元美智子君）

はいぞうぞ。

○委員（管野英美子君）

はい。CSPFCの理事をなさっている斎藤さんていう方、非常勤でなさってるんですけども、その方がCuelの講師としてされているんですね。このCSPFCという会社は2022年の10月に始まった会社だから、このスマートシティが始まってから、できた会社じゃないですか。

そういうところを、この人が理事だから、そこの会社に、業務委託っていうんかな、仕事をさせる、ここのところに問題はないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

もともとこの経理システムはですね、ブルタックっていう会社がやっていたものです。

ブルタックという会社がしていたものをですね、Cuelという会社を立ち上げてそこに移行したというものでございまして、そこの講師として斎藤氏が行っているというふうに聞いております。

○委員（管野英美子君）

その人がこのCSPFCの協議会の理事をされている。そういうおかしな関係じゃないですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。確かに理事をされていらっしゃいます。

講師というのは一つのお仕事としてですね、Cuelの経理システムの中の講師をされているというふうに聞いておりますので、理事だからというものではなくて、経理システムの講師として行かれているというふうに聞いております。

○委員長（秋元美智子君）

ごめんなさい。ブルタックっていう会社はなくなったんですね。会社名変更。

○総務部理事（松本真由美君）

もともとですね、ブルタックという会社

は斎藤氏がしてたものではなくてほかの方と共同で開発をされたというものでございます。

それをCuelという会社にしてですね、そこに講師という形で斎藤氏が行っているというふうに聞いております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

もし今、子育て中の人が、このシステムを使おうと思ったら使えるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

無償提供いただいておりますので使っていただくことができます。

○委員長（秋元美智子君）

管野委員。

○委員（管野英美子君）

それなのにCuelっていう会社の住所も変わってるんですけれど、そのことも把握はされてないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

Cuelの会社の住所が変わってるということは知りませんでした。

○委員長（秋元美智子君）

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

今でもお付き合いしてるんじゃないんですか、この関係で。私たちが予算を認めなかった、次の予算を認めなかったからもうほっとくかみたいなことにはなってるんですか。

お付き合いをしてるであれば、なぜ住所が変わったことを知らなかったですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

住所を知らなかったっていうのは詳細そこまで私が見ていなかったということなんですけれども、どのような事業を進めるにあたってもですね、必ずCSPFCの事務局とそこの会社と一緒に入って交渉はCSPFCを通してさせていただいてるということになります。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっとよくわからないシステムだなと一瞬ちょっとひっかかったんだけども、その場合、CSPFCは誰が出てくんですか。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。今、豊能町の担当という方は岡田氏です。岡田氏と真子氏と事務担当してる関氏ですね。と、やりとりはさせていただいております。

○委員長（秋元美智子君）

各自治体担当者がいるってこと。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

この会社にこだわるようですけれども、この協議会が始まってからできた会社じゃないですか。私たちは塩川町長に立派な会社ばっかり集まっていると議会でも聞いていますよね。始まってから、2022年10月設立と書いてあります。

こういうところを信用して仕事をなさっていたということですね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

先ほども御説明したんですが、もともとはブルタックという会社がしておりましたので、そのブルタックの中での、進めているというような内容を聞いていたうえで、社名変更、Cuelに変わったということを聞いております。

○委員長（秋元美智子君）

社名変更じゃなくて会社が変わったんですよね。ブルタックがなくなったから。

○総務部理事（松本真由美君）

社名変更で代表者が変わったというふうに聞いております。

○委員長（秋元美智子君）

ここでね、ちょっとあれだから、またもうちょっと調べてからにしますけれども。

さっき言いました豊能町担当というのが岡田氏と真子氏ともう一人いるのかな。

ということはこの３人のところで、既にさっき言われた、ハニタスのとよのんが小さい、大きいものにしようかってのは、この場面ですか、お話しするのは。

それともその一つ一つの八つの事業の中の一つ一つによって、相手の担当者が変わってるんですかこれは。

はい、お願いします。

松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。今回の業務委託ですね、業務委託をさせていただく窓口担当者として岡田氏という豊能町担当として岡田氏がいらっしゃいます。

CSPFCの中の、ほかの事務をされてるという中で、関氏という方がいらっしゃるんですけれども、いろいろなやりとりさせていただくのは１番目には担当されていらっしゃる窓口でいらっしゃる岡田さんに連絡をします。

詳細岡田さんと詰めた内容について関さんが分担されているようなところについては関氏に連絡をすることもありますが、いろいろなことで調整をするときは必ず真子氏、それから岡田氏、関氏がいらっしゃる状態でお話をさせていただいております。

○委員長（秋元美智子君）

何でとよのん一つがそんな前に進まないのか、ちょっと不思議だなと思って聞きました。

ほかございますか。

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

今後どうしましょう。今回の業務委託っていうやり方をね、当然、いろんな反省点があると思いますよ。

特に建築関係であればそれなりに実績っていうものが積み上がってくるっていうのでわかりやすい。物品を買うっていうのもそうです。

でも今の時代システムっていう目に見えないもの、動いてる会社ってたくさんあるんですよね。豊能町にもたくさんの業者入ってますよね。そしたらもしかしたら途中で、頓挫することだってあるわけですよ。会社自体が。それぐらい簡単に社名変更して、また新しくつくりましたっていうことが簡単にできるのが、システム会社なんですよね。個人の能力が全てですから、あとパソコン１台があればそれでいけるわけですから、設備費用も要らないし。今後そういうことが起こってくるわけですね。

業務委託する場合は、今回の反省を踏まえてどういうふうにするかっていうのも、今後の防止策としては考える必要が出てきましたよね。

先ほどちょっと僕言いそびれたんですけど意思決定過程のところで、これはなかなか皆さんにはきついかもしれないけど町長という立場でやってきました。そしたら、そこが強引に進めた場合、それを止めることがなかなか難しい。

そしたらある程度ルールで、せめて部長過半数の同意が要るとか、これ一つの例ですよ。何かそこで、そういうので、いくら突拍子もないことを言ってきたとしても、そこに町長が全部の権限を持ってたとして

も、最低限この取締役会じゃないけど部長会で過半数の同意がなければそれができないとか、何かのルールつくっていかないと、またどんな人がぽんと地方自治体の場合選挙があるところは、人気だけでやってきちゃうわけですよ。

そしたらその人たちが、とんでもないこと言った場合、なかなか反対って難しいですよね職員の方は。そこで、ルールとしてこうなってますからっていうことを毅然として止めれるような体制っていうものは、やはりそのバランスにはなると思いますよ、民主主義で当然選ばれた首長ですから。

そことのバランスがありますけど、そういったルールっていうのを今回の反省を踏まえて何かしとかないと、難しいと思いますよ。

○委員長（秋元美智子君）

今の議長の、お願いします。

はい、上浦町長。

○町長（上浦　登君）

はい。今議長おっしゃいましたとおりといいますか性善説をとるとそうでもないんですけれども、今おっしゃいましたように選挙でですね選ばれてくるものですから、前の町長がどうのこうのということではなしにですね、やはり合議っていうのは大切だと思っております。

少なくとも行政がやる仕事についてはですね、本当に住民の方々から貴重な税金をいただいてしていくというようなところですので、それはもうもっともだなと思っております。

今私たちがしておりますのは民間で言うたら経営会議っていうような、社長がいてて、常務がいて、ざーといるようなものです。そこで合議をするようなもんなんですけれども、我々政策会議と申しておりますけれども、そこに町長、副町長それから教育長、それから各部長級が出てきて、企画サイドからこういうことを進めていきたいと言うけども意見があるかと、意見があったら言うてくれと、進める進めないと判断をしてこれでいいかということで、合議をさせていただいて今進めているというような状況で。ということを進めてきております。

今のことを危惧なさってられるんじゃなしに、多分これからのことでいろんなことがあるってやるんで、決めといたほうがいいんちゃうかということですのでちょっと勉強させてください。

はい、よろしくいたします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長。

○議長（永並　啓君）

今回は解決に向けて何とかね、しないといけないんですけど、なかなか、民主主義の中で選挙で選ばれてくるってなると、なかなかそういうのを、職員さんの中で、抵抗するというのは難しいだろうなと。ある程度のルールがないといけないんじゃないかなというところがあるんですよ。

性善説今までよかったんですよ。豊能町じゃ、そういう事例が起こってしまったから、だからそういうところも、何かこう、どこまでが民主主義の妨げない範囲なのかまだわからないですけど、これくらいだったらいけるとか、そこら辺の抵触しない範囲で、やはりある程度のルール付けをしていく必要があるんだろうなというふうに思いますね、まあじっくり考えていただければ。上浦町長時代は大丈夫かなと思いますんで、じっくり今後のために考えてください。

○委員長（秋元美智子君）

前回１億3,518万1,000円の件に関して、こうしたことが二度と起きないように、町

のほうでも考えていただきたいという、議長に申し入れて、議長のほうから提言書として出されたと思います。

その金額だけじゃなくて、やはり今回もいろいろお話聞くと、やっぱりすっきりしない、本当にこれどうなってんだろうというふうなものが多々ありますのでね、今の議長言ったように、きちっと今後こういうことがないように、していくにはどうしていくかってこと、今後考えていただきたい、お願いいたします。

僅かな職員の中でね大変な思いをしながら仕事をしてきて、把握できないことも多々あったと思いますよ本当に。

ほかございますでしょうか。

暫時休憩いたします。

（午後２時33分　休憩）

（午後２時45分　再開）

○委員長（秋元美智子君）

休憩前に引き続き会議を再開いたします。

はい、永並議長。

○議長（永並　啓君）

すいません、休憩をとっていただきありがとうございます。中川副議長ここの場面では質問できないんで、ちょっといろいろとお怒りなんで。今まで中川副議長がいろいろとインセンティブはとれないのかってうことをしきりに結構言ってたんですよね。

でも今の話を聞くと、そういうこともなかなかないのか難しいんじゃないかっていうのが、今の説明聞くとわかる。当時の説明では、あたかもそういうような感じのものがもらえるような説明だったことは間違いないんです。

そこら辺を含めて、今後、また後で秋元委員長のほうから、今後調べていただくことはまとめていただきますけども、今後また、精査していただきたいなと。

それで発言というものは、やはりずっと残ってて今やってることって、前の発言と違うからごちゃごちゃごちゃごちゃしてるわけですよね。やはりこう一貫してないっていうのは非常に問題なんで、これからも、これからそういうことをしっかりしていただきたい。

それとあと１点気になってるのは、中古車なったことがわかったときの会議とかがあったらその日時なんかは後でまたそういう場でこの場で教えていただきたいなと思いますんで、よろしくお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ほか何か質問ございますでしょうか。いい。

では、今の三つの件、報告のみしていただきました。

で、今の件もよろしいですかこれで。

（委員了解）

○委員長（秋元美智子君）

はい、わかりました。

ほかに何か、その他としてございましたら、よろしくお願いいたします。

あわせて今後どうしていくかってことも含めて、御意見などいただきたいですし、また今日、皆さんのほうから出たお声、要するに調べていただきたいことは、後でまとめさせていただきますけれども、今の段階で、今後の協議につきましてどうしたらいいかということがありました御意見いただきたいと思います。

はい、管野委員。

○委員（管野英美子君）

ここで何を問うても、協議会には伝えてるで答えがない。それで、こちらの職員さんもかわいそうっていうかね気の毒なんですね。

でも私たちは仕事として、住民からいただいた税金をねしっかり見張らなあかんと

いうことがあるから、本当に、矛盾してることは矛盾してるけれども、ちゃんと答えをいただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

CSPFCからですね。

ほかございますでしょうか。

ステッカー一つとっても結構行ったり来たりなんですよね。毎回、こっから、なぜ大きくならないのか貼らないのかって、なぜっていう質問に対する答えがないまま、また、こういう機会があったらなぜ大きくならないのかと何とかしてくれと。

また、返ってきたことが現状のままっていうのはやっぱりね、これはちょっとまずいことなので、管野委員は、ほぼそういうことをおっしゃってんだと思いますけれども。こういったこともなぜこうなってるのかってこともきちっと解明していかなくちゃいけないかなって今思った、特に私は感じました。

ほかございますでしょうか。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

要望で。さっき言いましたけど国への補助金の返還がないように、前のほうでしっかりと進めていただきたいということで、要望にさせていただきます。

○委員長（秋元美智子君）

会計監査が入ったらちょっと厳しいかな。本当に慎重にしてかなくちゃいけないと思います。

ではですね、閉めるのに当たりまして今日出た、行政に対するお願い事項なんですけども、順番的な話で申し訳ない。一つ車です、ハニタスの。これがね、本当に細かくどういう経緯で中古車になったのかっていうこの日時的な流れと、それからその後動き出してからのそのステッカーですね。どこでどう決めて、そのあとお２二人が松本理事と田中課長はきっと大きくするかいろいろ言ったと思います。それでもなんでなのかってこと。首かしげてるけども、お願いしますね。はい。それと、これが１点です。ハニタスの車の件です。

それからもう１個、CSPFC、この業務委託した契約一切です。どんな内容の。ここが次の企業に当然また委託してますわね。それらも一切上げてきていただきたい。これ交渉してもお願いしますし、その前に副町長は、文書でこれをお願いするとおっしゃったのかな、まずそういう手順を踏んでいただいて、お願いします。

それと、豊能町の知的財産となるものは今回の事業の中にあるかってこれ議長からの質問でしたけども、この辺もきちっと、有るか無いか。今の段階ではすぐ有るの無いの出るのは難しいと思いますので、これもきちっと有るか無いか、ゼロならゼロでお願いいたします。

それともう１点、私は気になりましたのは行政とCSPFCのこの窓口の人材ですね。どなたいつも対応してるのか。漠然とした団体じゃなくて窓口となる人材、真子さん、関さん、岡田さんという名前が出ましたけども、どんなふうな役割をしているのか。

この４点を調べてお願いしたいんですけども、ほか何か漏らしてるかな。いいですか。

（委員了承）

○委員長（秋元美智子君）

まあね、こういうことが起こらないような今後の対策につきましては、行政のほうにお願いいたしまして。それととても一つ気になってるのは私気になってんのは、１億3,518万1,000円、先方は払うと言ってるんだけどもこれきちっと請求するなにがしかの証拠というのかな。

何かあったとき、なんだ行政のほう結局

は何も言ってなかったんじゃないかというふうなことにならないように、それなりの何ていうかな、要求書なり、依頼書なのかな、そういったものできちっととっていただきたいと思いますので、それは既にしてるかと思いますけれども、改めてお願いいたします。

ほかございます。ありますか。

（「いいです」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

いいですか。はい。

ないようですので、以上で本日のスマートシティ特別委員会、これで閉会したいと思います。

どうも長い間ありがとうございました。

よろしくお願いいたします。

午後２時52分　閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和　　年　　月　　日署名

豊能町議会 スマートシティ特別委員会

委員長